

補助労働力の
間口を広げたい

01

11月12日、県庁農林水産部構造政策課主催の初心者向けりんご作業体験会が当JA管内にて開催され2名が参加した。

受入れをした成田達也さんは「こちらは初心者大歓迎！ またいつでも畑に来てください」と笑顔で話し、始めは硬い表情だった参加者からも、作業と交流を通じて打ち解けた様子で言葉を交わしていた。

その場で割ったサンふじに蜜がたっぷり入っている様子に、県庁同課松坂彩佳さんは「青く見えた実にもこれだけ蜜があるなんて感動した。お土産でいただいたりんごを食べるのが楽しみ」と笑った。



休憩中、
りんご作業について語る初心者ら

青年部、
農家のために活躍中

02

11月23日から12月5日までの全6日間、青年部は紙漕沢ライスセンター前にてクロナコヤマトの集荷サービスを行った。

この取組みは3年目を迎え、昨年の件数大幅増に比べ今年の伸びは穏やか。

雪が降り出す天気の中、当事業の発起人である溝江翼理事は「もっと少し増えると思ったが荷受け数量は微増。しかし喜びの声が聞けることがなにより嬉しい」と話した。利用者は「毎年たくさん送るので安くなり助かる。来年もぜひやってほしい」と笑顔で話した。



荷受・会計・運搬まで請け負う
頼もしい青年部メンバー

食の大切さを共有

03

EXILE USAさんが、月刊誌『地上』の取材で津軽地域を訪れた。農作業から着想を得たダンスで子ども達と楽しく豆まきをしたり、国連WFPサポーターとして飢餓のない世界の実現に向けて活動したりと、精力的に活躍されている。

県JA青年部理事の成田祐介さんと当JA職員三上司さんによるライスセンター施設案内に、時折質問をはさみながら見学。

食の安全を第一優先と捉え9月に竣工した新ライスセンター。青年部・職員一同、誇らしい気持ちでご紹介できたことは、産地にとっても重要なことである。



青年部役員とEXILE USAさん
食に対する思いは同じ



EXILE USA
JA青年組織盟友を訪ねる旅
— 食農応援プロジェクト —

<http://www.ienohikari.net/press/chijo/>

農業・地域・JAを扱うリーダーの雑誌
地上 facebook



JA相馬村ライスセンターをEXILE USAさんが訪れた内容は、農業青年向け月刊誌『地上』3月号(税込618円)掲載予定!

ご購入希望の方は農業振興課 石田まで

topics

選果基準をレクチャー

04



フルーツステーションで
選果に理解を深める参加者ら

11月28日、JA青森中央会主催の新任JA職員・新規就農者向け『栽培技術現地研修会』が開催され、第5回目となる今回のテーマ山選果・選果場を学ぼうと、受講者が当JAを訪れた。

振興課齊藤指導員は、山選果基準の説明だけでなく、その情報を組合員が活用しやすいよう、テレグラムに見本の写真を掲載することで、現場でもスマートフォンさえあれば自分で確認ができる仕組みを作っていることなどを説明。その後のフルーツステーションの施設見学でも、参加者は理解を深めていた。

topics

リンゴの盛り上がり
をPR

05



キレイな三日月金星に驚くとともに
直売所の魅力を再認識するRABアナウンサーら

11月30日、夕方のニュース番組『RABニュースリーダーミチ』内のふるトクコーナーにて、振興課石田有希子さんが直売所で開催中であったりんご祭りの話題を紹介した。晩生種中心の品揃えや、味わいの違い、また梱包・発送作業もスタッフで行う体制についてアピール。

RAB中村香音アナウンサーは「三日月金星は初めて見たが、食べてみたい」と話し、県産リンゴの美味しさが全国に伝わるようエールを送った。

topics

冬の準備応援します！

06



売場には替刃や塗布剤がズラリ！
ご来協お待ちしております。

12月1日から3月31日まで、各支所購買では剪定用品を5%オフで販売しております。鋸、替刃、塗布剤など、この機会にぜひご利用下さい。

また、湯口購買課には各種防寒靴も取り揃えております。例年好評の長靴に加えて、少しのお出掛けにも使いやすいシヨート丈のスノーブーツも新しく品揃え致しました。軽い作業後にお出掛けする日などにお勧めです。

組合員のみならず、冬の時期もぜひお気軽に購買課へお立ち寄りください。

topics

全国へ羽ばたく
和紙へ

plus



りんご剪定枝パルプ配合の
表彰状サンプル

年明けに八戸にて開催される国体の表彰状に、紙漉沢の紙漉の里で漉いた和紙が使われる。

11月28日、弘前大学研究・イノベーション推進機構UR A室 山科則之特任助教ら3名が、りんご剪定枝をパルプ化した原料を配合した和紙制作を行った。

国体の表彰状は毎年、開催地産の和紙で作られているが、青森県は和紙処がない。唯一手漉き和紙の作れる『紙漉の里』で、試作が2年前より続けられてきた当事業に白羽の矢が立った。「ご当地縁の和紙により、地元の魅力を発信したい」と山科先生は意気込んだ。

JA TOPICS
+Plus